

公益財団法人 庭野平和財団御中

東アジア次世代リーダー育成プログラム
“豊かな地域でつながる東アジア”

平成 26（2014）年度 活動報告書

平成 27（2015）年 5月 31 日

ARI (Asia Regional Initiative)

1. 活動の目的

本プログラムは、東アジアの抱えるさまざまな共通の課題を共有し、問題解決のため共に努力する新しいリーダーシップを育成することを目的として開始しました。特に、かつては多地域・多宗教間にわたって連帯と協力関係のあった宗教者ネットワークに焦点をおき、宗教間・国家間の障壁を越え東アジア共同の未来を構成することのできる人材を育成することを目的としています。地域（local）に根を張り、地球的な（global）ビジョンを共有して協力できる「東アジア人」として、宗教者としてまたは地域活動家として新しいリーダーシップを築き上げるために、3カ年をひとつの期間としてプロジェクトを実施しようという試みです。

2. 活動内容

第1回 東アジア次世代リーダーシッププログラム SEAL (School for East Asia Leadership) 2014 の実施

【期間】

2014年8月29日～9月2日

【開催場所】

韓国（ソウル）

合宿場所：ソウル国際ユースホステル

訪問場所：ソウル麻浦区ほか各地

【テーマ】

「豊かな地域でつながる東アジア」

資本と国家権力が追求する富国強兵を目的とし、その犠牲となる「地域」ではなく、地域の主権を回復し、地域自らが生命、平和、自治を起こしていくこと、そのための宗教者の役割と東アジアの連帯の可能性とは何か。日常的な生活の場である「地域（まち）」で、住民がどのように主体的で自由な想像力をもって、住民による住民の「地域」をつくっていくかの探求をテーマとしました。

【ワークショップ】

Issue defining & Alternative (I,A) ワークショップ

ARIではこれまで「ISA ワークショップ」として、問題発見（Issue defining）、シナリオ構築（Scenario building）、オルタナティブ模索（Alternative）を組み合わせたワークショップを開催しました。今回はこのうち Issue defining と Alternative に集中した I,A ワークショップを行いました。

1. 問題発見 (Issue defining)

- セッション① 「アジア史」再構成
- セッション② 日韓共同の課題
- セッション③ スタディツアー（ソンミサンマウル）省察
- セッション④ 「豊かさ」の概念：価値の再構築

2. オルタナティブ模索 (Alternative)

- セッション⑤ 理想の「まち」とは何か
- セッション⑥ 私たちの宗教団体（市民団体）の課題

【スタディツアー】

ソンミサン・マウル訪問

共同育児を発端に 2000 人あまりの住民たちがコミュニティを形成した「ソンミサン・マウル(町)」を訪問し、住民自治を軸とする共同体づくりについて、現場を巡察しながら学びました。

<訪問箇所>

- ・ ソンミサン学校（オルタナティブ・スクール）
- ・ 共同住宅（シェアハウス）
- ・ まち劇場
- ・ まちカフェ
- ・ 生協、リサイクルショップなど
- ・ 地域レストラン

韓国の各宗教を訪問

宗教間の理解を深めるために教会や寺を訪ね、各教団のリーダーからの講義を聞きました。また、平和人権問題にとりくむ宗教団体の活動に参加しました。

- ・ ソウルチェイル教会礼拝…チョン・ジヌ牧師講義
- ・ 曹溪寺訪問…ジョンホ僧侶講義
- ・ パク・チャンイル神父講義
- ・ 5 大宗教団体連合祈祷会に参加…2014 年 4 月のセウォル号沈没事故に関する真相究明を求め、光化門広場で宗教者による祈祷集会が開かれた。宗教者による社会的活動を体験した。

3. 活動の実施経過

(2014 年)

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 4 月 | 日本・韓国で実行委員会会議 |
| 5 月下旬 | 参加者募集 |
| ～6 月 | |
| 7 月 | 事前勉強会（日、韓それぞれ）
ワークショップ本番の課題発表準備 |

8月29日 ワークショップ実施（詳細スケジュールは下記）
 ～9月2日
 9月下旬 評価会
 10月 東アジア勉強会（韓国）
 1月～3月 次回プログラムの相談会

【ワークショップ プログラム】

時間	場所	活動	内容
8月29日(金)			
16:30	ソウルユースホステル	参加者集合	
		オリエンテーション	
		夕食	
8月30日(土)			
9:00-	ソウルユースホステル	韓国円仏教	
9:20		朝の礼式	
9:45-		セッション①	日本・韓国現代史振り返り、質疑応答
12:10		アジア史再構成	
		昼食	
13:20-		セッション②	2012年以降の日韓10大課題について発表、討論
15:00		日韓共同の課題	
16:00-	ソウル市麻浦区	スタディツアーソンミサン・マウル訪問	
18:30			
18:40-	ソンミサン食堂	夕食	
19:40			
8月31日(日)			
9:30-	ソウル チェイル教会	[プロテスタント]チョン牧師の話 礼拝	民主化運動におけるチェイル教会の歴史
11:30			
12:00-		昼食	
13:30			
14:00-	曹渓寺	[仏教] ジョンホ僧侶の話	佛教と労働、労働者の人権問題
15:30			
16:20-	ソウル チェイ尔教会	[カトリック] パク神父の話	カトリックの南北交流
18:30			
18:40-	東大門周辺	散策	中央アジアからの移住民のまち散策
19:20			
19:30-		夕食	
20:30			
9月1日(月)			
8:30-	南山	朝の散策	南山にまつわる韓

9:20			国民衆運動の歴史
9:40– 10:00	ソウルユース ホステル	立正佼成会 礼式	
10:15– 12:00		セッション③ スタディツアーや省察	・ソンミサンマウル の成長の理由考察 ・時代の背景につな がるソンミサンマウル についての説明 ・グループ別討論
12:15– 13:15		昼食	
13:15– 14:10		セッション④ 「豊かさ」の概念	・OECD 幸福度指 数、GNH について ・「豊かさ」概念の再 考察
14:10– 16:00		セッション⑤ 理想の「まち」とは何か	・グループ別 WS「理 想のまちについて考 察」 ・発表、討論
16:10– 17:40		セッション⑥ 私たちの宗教団体(市民団体)の 課題	・10 年後/3 年後の 優先課題を3つずつ 挙げる
18:00– 18:30		夕食	
20:00– 21:00	光化門広場	五大教団連合祈祷集会	
9月2日(火)			
9:00– 11:00	ソウルユース ホステル	全体評価会	・今プログラムの感 想 ・次回プログラムま での期間の自分の 目標 ・SEAL の社会的意 義、今後の発展方 法
12:00		昼食	
13:00		終了・解散	

4. 活動の成果

- ・2013年度（2014年2月）に東京および秩父市にて実施したSEAL プレ会、そして本格的に第一回としてはじまった今回のプログラムを経て、日韓の参加者間に親しい関係性ができた。さまざまな宗教、違った国の人々が多く時間と共にし、討論と行動を一緒に行うことで、国家と宗教を超えた協力関係を築くという本プログラムの目的に沿った活動となつた。
- ・次世代リーダーシップの中核の役割となる3, 40代の参加者が集まり、日韓間はもちろん宗教間の対話（inter-religious dialogue）を通じて、現代社会の普遍的課題と日韓間の共通のアジェンダを模索する課程が、次第にこの枠組みを形成していると判断できる。今後彼らを中心とし、2, 30代の若い青年教育などに寄与することが期待できる。
- ・日韓の現代史（戦後史）、それぞれの近年の10大ニュースをとりあげ意見交換することで、日韓の戦後の歴史的背景と現在の社会問題の中から類似と相違点、見えていなかつた問題点を見出し、イシュー・ディファイニングすることができた。
- ・「豊かさ」の概念や「まち（地域）」についてのワークショップ、ソンミサン・マウルを訪問するスタディツアードを通して、自らの活動拠点を振り返り、区域としての「まち」という概念にとらわれず自分の属する職場やコミュニティーなどに、「豊かなまち」の思想や理念、方法論をどのように活用できるか、それぞれが考えるきっかけを作ることができた。
- ・プロテstant、仏教、カトリックそれぞれの指導的役割の方々から直接話を聞き、また、セウォル号沈没事に対する5大宗教祈祷集会に参加することによって、韓国における宗教者たちの社会的活動と役割について、体験的に学ぶことができた。
- ・日本の福島原発事故、韓国のセウォル号事件は、全く違う事件ではあるが、高度経済成長という流れと人間の欲望と傲慢、生命を軽視する風潮がその背景にあるという点で、日韓の21世紀の新しい課題に決定的に重要な問題を提起する事件として捉えられた。特に宗教者としての社会的課題を振りかえることができた。この二つの事件は、持続的に私たちの社会を省察する一つのキーワードであり、特に本プログラムのテーマである「豊かさ」の概念を宗教的な観点から省察し、そのオルタナティブを模索するきつかとなつた。

5. 今後の課題

- ・4～5日のプログラムの中で多くの活動やワークショップを組み込んだため、意見交換、討論の時間が相対的に少なかつた。また、トピックスがやや多様すぎ、ひとつひとつを掘り下げることができなかつた。

今後はテーマの中でもトピックを絞り、じっくり意見交換しあう時間が必要である。

・テーマを通して、どのようなオルタナティブをつくるのかをしっかりと築けていない。今後は、テーマでとりあげられた課題を自らの課題として引きつけて考え、問題提起し、具体的で実践的なアイデアにむけて話し合うべきである。

・日韓の参加者それぞれ、各宗教グループがもう少しバランスよく参加者できるよう、人を探す作業を併行する必要がある。韓国の場合、協力の可能性は多いが中間指導者グループが忙しいという点が課題であると思われ、日本の場合は他の宗教団体やグループとの協力を強化していく必要があると思われる。

・韓国と日本の参加者が考える「まち」の概念およびその重要性については差違があり、今後「まち」が新しい代案を作る重要な実験場となるためには概念と実践の談論を開拓する必要がある。

・宗教者だけでなく、価値を共有することのできるさまざまな「まち」の現場で活動する人々との交流と協力が必要である。現場から具体的な問題や課題を宗教者と一緒に共有することが大事であり、オルタナティブと一緒に模索するのが望ましい。

・日韓間の対話から今後アジアに拡大することが必要と思われるが、日韓間でも通訳が必要なため、コミュニケーションする言語の問題の解決策が必要である。両国の言語を覚えたり、時には英語を使ってコミュニケーションできるよう多様な意思疎通の方法を考える必要がある。

・SEAL プログラムは4泊5日の日韓合宿だけでなく、それぞれの地域での定期的な会議や勉強会、ネットなどを活用して日韓参加者のコミュニケーションを継続し、関係性を深めていくことが含まれているが、合宿以外の活動が弱かった。（韓国側で何度か勉強会や会議を実施できたが、日本側と共有することが少なかった）。今後はこの運営について、より実践的なスケジュール立てをしていく必要がある。

6. 参加者によるフィードバック

主に、以下 3 点において意見をまとめてもらった。

- 1) 今回の SEAL プログラム全体の感想
- 2) 次の SEAL は 6 月日本での開催予定。次回までの約 10 ヶ月間それぞれ何ができるか。
- 3) SEAL を今後どのように生かしていくのか。このプログラムにどのような意義があるか。

工藤夏紀（立正佼成会）

- 1) 今の自分の職場や家庭やコミュニティに何が生かせるかと考えるきっかけをもらった。パク・チャンイル牧師の北朝鮮での話が興味深かった。宗教団体で主導的な立場にいる人々ともっと闇闇なコミュニケーションをしていきたい。
- 2) 来年までの 1 年間、それぞれのコミュニティで、佼成会がふだん行っている「和顔愛語」という実践をしてはどうか。いつも笑顔であたたかい言葉かけをしていくということ。いまあるコミュニティをよりあたたかいものにしていきたい。ソンミサンマウルで学んだ共有と協力とわかちあいを実践していきたい。
- 3) 宗教者という視点と、東アジア全体ということも意識に入れながら SEALを見つめていきたい。いろいろな宗教の方々と一緒に今後何かできることを考えて学びたい。

イ・ヨンシン（カトリック）

- 1) それぞれ違った宗教、違った国の人々が一緒に過ごすことができたことが一番意味深かった。最近韓国と日本の政治や歴史認識の葛藤が深まっている状況で、宗教者たちが一緒に問題を考えることができたということが、このプログラムの一番の重要な点。宗教者たちが信者たちに精神的な影響を与えるので、私たちが努力した部分が日韓関係にも影響を与えると思う。
- 2) 私が所属する修道院でできることは教育的な部分なので、現在 13 名が共同生活をしている中で自分が担当している兄弟が 3 人おり、私がここで経験したことを見兄弟たちと一緒に考えてみたいと思う。教育を通して、SEAL に関心を持つ兄弟がいれば彼らが参加できる機会をつくれるようにしたい。若い青年リーダーが参加できるように努力したい。
- 3) セウォル号の 5 大宗教団体祈祷会に一緒に参加できたことが意味深かった。SEAL では教育（座学）と併せて、集会など（例えば脱原発や生命に関する）があれば実際参加する時間を持てるといい。

パク・ジョンボム（プロテスタント）

- 1) 2 月のプログラムよりも今回はずっとスムーズだった。しかし、参加者同士で考えを分かち合う時間が足りなかつたのが残念。日韓の参加者たちが、みな同じ方向を向いて考えを共有していると思うが、ある次元では少しずつ違つたりもするので、もっと深く討論する時間が必要だったのではないか。
- 2) 言語の壁を越えるため、6 月まで日本語を勉強したい。また、まち・共同体の話をしながら、自分がどんなまちに住みたいのかを考える時間もなかったという感じがしたので、この 10 ヶ月の間に深く考えてみたい。
- 3) アジアの歴史や日韓 10 大課題をみながら類似点を多く感じた。閉じた場所で同じような人同士で情報共有しても発展がないが、韓国と日本は似たような社会を辿っているので、年に一回互いにニュースを共有し解決法を考えることができれば、日韓の社会に大きな意味があるのではないか。

篠原祥哲（WCRP 日本委員会）

- 1) 内容と方法論の両方を学べるのがこのプログラムの良いところ。特にフィールドが多く、教会やお寺に行き宗教者が社会活動に取り組んでいる話を聞かせてもらったのが印象に残っている。課題としては、ディスカッションの時間が少ない。特に 10 大事件は非常に興味があったのにさらっと流れてしまったような気がする。5 大ニュースくらいにして、もっとお互いに深く意見を共有しあってはどうか。

2) これから 10 ヶ月間、自分は 2 つフィールドにおいて活動する。ひとつめは福島の問題で、支援というよりアドボカシーが大事になってきたので、今回学んだ方法論を自分で生かしていきたい。ふたつめは、アジアの中での宗教者・日本の中での宗教者の取り組み。これまで単発的な活動で終わっていたので、このような長期的に教育の視点を盛り込んだプログラムを見習って、10 ヶ月間でそういう組織作りに取り組みたい。

3) 宗教者が現実問題の解決のために市民活動家と出会っていくプロセスということの意義が大きい。宗教者は人・宗教施設・募金すればけっこうな金額が集まる、ということで場合によっては社会的資源が多いが、社会問題に関しては少し関心が薄い傾向にある。このプログラムの 10 年後は、宗教者と市民活動家との出会いを、単発ではなく教育プログラムとして確立して、長継続的に行っていくと社会変革への道が出てくるのでは。

宇梶憲市郎（立正佼成会）

1) 人と出会って共通のテーマと時間、空間を共有するということがとても楽しい。いろんな社会問題を解決していく中で、その人と出会ってわかり合うことで得られる喜びというものは困難を乗り越えていく大事な原動力になる。もう一つは、日本と環境や文化の違いがあるとはいえ、韓国の宗教者がここまで社会的に活動的になり得るというのが自分にとっては強い刺激だった。

2) これだけ多くのことを学んで楽しくすごせるという体験を、自分の学生にも経験させたい。学生を卒業してから将来的に SEAL に参加してもらえるよう、そのためには自分が職場で発信しながら、相談していきたい。また、言葉の勉強を向上させ次回にはもっとコミュニケーションを実現したい。

来年 6 月のプログラムでは上野村への訪問をぜひ実現したい。ソンミサンマウルは都会の中でのコミュニティのできあがり方。それに対して農村におけるコミュニティのできあがり方として、上野村を訪ねられたら良い。

3) 長期的な点でそれぞれの教団の立場としての目標を上げたが、仏教はそもそも縁、人とつながりあうというのが教えなので、宗教者の立場から社会に向けて人とつながりあうことの助けになることができないか、自分自身模索している。

チョ・グアンス（プロテスタント）

1) 本プログラムを通して国家主義的な悩みとは違う側面から事物を見、考えることができるという学びになった。思考の転換が必要であり、また初めてこのプログラムに参加したので理解が難しかったおというのもある。

評価として、まちづくりのための日韓会議なのか、次世代リーダーシップ育成のプログラムなのか、混同していたように思う。焦点が何なのか、明確でなかった。充分な討論の時間が足りなかっただけでなく、プログラムの焦点がなかったので、次には焦点をとらえられたらいと思うし、リーダーシップなら一つのプロジェクトを越えて東アジアのリーダーを育成するプログラムが必要。

個人的には、私は中国延辺の朝鮮族同胞と北朝鮮のための事業をしているのだが、まさに変化をし続けているこのエリアで、まちづくりの学びは示唆に富んでいた。むしろ、このプログラムの一番の核心であり実験的に可能なのが、私のいる延辺地域と北朝鮮ではないかと思う。

2) まず、2 ヶ月前に始めた日本語の勉強をより一生懸命やる。ふたつめに、地域の共同体のために働く同志をみつけ、できれば次回このプログラムに中国国籍をもった同胞あるいは漢族の中国人であれ、参加させられるようにしたい。そこで子どものための無料の勉強室など、いろいろなプロジェクトを行っているが、そこを基点にまち共同体をどうつくるか、一緒に考える人々の協議会や討論会をつくり、無料勉強室を中心にこの地域に理想的なまちをどう築くかを考える人の集まりを 10 ヶ月の間に作りたい。

3) できれば延辺で SEAL プログラムを一度行ってほしい。現地の人々と出会い、SEAL の社会的影響力を中国まで拡張できればよい。

森島奈々子（YWCA）

1) SEAL 全体を通して思ったことは、セウォル号の祈祷会もプログラムもそうだが、一つの大きな課題に向けてどんな宗教であれ人であれ、同じ目標に向かって違うアプローチをする

ことで解決できることがあるのではないかということ。まず自分自身がインプットで終わるのではなく、具体的にアウトプットをしていきたい。そのために具体的な目標が大事。まず帰ってプログラムをちゃんと整理し、私は自分の団体で日韓ユースプログラムを担当しているので、そこで東アジアという視点でもう少し国を広げたい、という提案をしたい。プログラムのコーディネーターをしていると自己満足で終わりがちだが、ちゃんと何を与えられるか、何に対して自分が学べるかを今後も考えていきたい。

金恩美（立正校成会）

1) 2回目にしてやっと SEALに対する理解ができてきた。いろいろな教団を訪れ、直接社会に参加している活動に一緒に参加できたことが意味深かった。私の住む学林がいわゆる「ムラ」であり、寮にはいろんな国の人たちが共同生活をしているので、ソンミサンマウルで得るもの多かった。

日韓10大ニュースの調査が良かった。私は今まで日韓交流ではいつも韓国と日本の歴史認識に差があり、そこをマッチングさせ討論するのが難しかったのだが、今回お互いに10の出来事を考え一緒に発表したことがとても勉強になった。

2) ソンミサンで、違いを理解するには壁を低くする、という言葉が印象に残った。これから10ヶ月間、私は違いのある人たちと一緒にすむ場所でコミュニケーションをするために自分がまず違いの壁を低くするために、相手を本当に理解するためには遠慮なく疑問などを提示していきたい。当惑することを隠すことなく、真摯な対話をするよう努力しようと思う。今回のプログラムで集会やまちに行くことを通して宗教者として社会問題に触接つながれるというのがすごいと思った。3ヶ月後卒業した後、韓国に帰ってくるとしたら、青年部署として仏教徒としての教えをもって問題に取り組む青年たちのプログラムをつくりたい。

3) セウォル号祈祷集会で、「すべては私が悪いのです」という祈祷文を読むのを聞き、まだわからないことが多いが宗教者として宗教の教えをもって社会問題に関わるためにどのような姿勢を持たねばならないか、多く考えさせられるきっかけとなった。今後も問題意識を持続けていきたい。

パク・ヨンラク（プロテスタント）

1) 篠原さんの歌が印象的だった。後から花は咲く」という歌は311大震災の被害者を追悼し記憶しようという歌だと聞き、忘れずに記憶するというのが本当に重要だと思った。それを他の人々と分かち合い、一緒に道を模索するということをしようと集まったのがこのSEALであると考えた。

また、朝の儀式、宗教ごとと一緒に礼拝することができたのが貴重な経験だった。

まちについて議論してきたが、日本と韓国ではまちに対する概念が同一ではないと思う。私にはまだつかみきれないというか、抽象的な印象を受けた。まだ正確ではないが日本人たちが考えるまちの概念というのはこういうものではないか、というのはおぼろげに掴みかけてきた。

2) たくさん話し合いたいのに言語の問題がある。なので私も日本語の勉強を一生懸命やりたい。

大友伸洋（庭野平和財団）

1) 助成する庭野平和財団という立場から。個人としては、昨年の2月から会う度ごとに相互理解が進んで、相手にも興味をもち、互いに韓国語日本語を学びたいという気持ちが出てきたこと自体が大きな成果だと思う。

2) 次の6月に開催されるまで、財団としては活動の成果を日本の関係団体にもっと説明してゆくということと、プログラムに充分な資金提供ができるよう資金管理をしていきたい。

3) SEALプログラムは稀なものだと思うので、プラスの部分と反省点とを全部まとめて、同じような活動をしていきたい団体に情報提供していきたい。横のネットワークづくりにもここでも経験を生かせるよう、報告書などをつくっていきたい。成果物を目に見える形で残していく。他の団体に共有する財産として。

キム・ミンジ（プロテスタント）

1) いろいろな領域の人が集まり、理想を現実に近づける作業だった。

- 2) 次の SEAL まで、周りの人々にこのようなプログラムがあると知らせ、当然のように思っていた国家という概念をまちという概念から考えられるという発想と思考の転換ができるということを、私の同世代の 20、30 代の若者たちと分かち合いたい。
- 3) いろいろな教団があつまり、二つ国が出会い、いろんな世代が集まった。この出会い 자체に意味が深い。市民社会と宗教者が一緒に運動力を誘発す促進剤の役割を果たせると思う。

ジョン・ジヌ（プロテスタント）

企画者として、ちょっと欲張りすぎたかと思う。プログラムを詰めすぎて、もっと多くの成果を出せたかもしれないを見逃してしまったのではないかという気もする。今後は余白をもったプログラムを。

10ヶ月間、私たちは領国に別れてはいるが一緒に何をできるのか、それについての議論が抜けていたのが惜しい。また、それぞれ韓国、日本でも参加者が集まって、どのように勉強していくかの話し合いも抜けていた。今後も SNS のようなものを通じて、離れていても持続的にこのグループが会える機会を作れるよう。息の長いプログラムとして、互いに学び、東アジア全体という脈絡の中で各自の社会、私たちの宗教が持っている課題を解決するために、この集まりがよいきっかけとなると期待する。

野口陽一（庭野平和財団）

1) 幕の内のようにいろんなものがちょっとずつたくさん入っていたので、これはこれで楽しかった。メインのおかずはかろうじて分かったから良いかなと思う。このプログラムの成立の歴史、その性格に多分によるものだと思う。そういう意味では参加者の方にご迷惑をかけている。逆に、その点についてこのプログラムはいったい何なんだと、参加者自身を考える機会にもなったのではないか。

次世代のリーダーシップということなので、次の世代の多数派を形成するような価値観をここで発信していきたいという思いがこのプログラムの名前に入っている。10 個あげた日韓の課題には、今の時代の問題点が浮き彫りになっているはずなので、それをどうやって越えていくか、それを考えるのがこのプログラム。その象徴が都市化ということなのだが、都市化の反対の村、まちというところから価値観をもってくることによって、今の課題を越えようというのが私個人のアイデア。近代化、現代化の中で、まちや村は古い・抑圧的・非民主的だということで捨て去られてきたが、そこに人間としての新しい価値を生みだしていく、というのが一つの考え方。

2) このプログラムは大体 5 日間しか取れず、出発と到着を考えると正味 4 日間しかとれないでの、事前・事後にやることをそれぞれの国で充実させる以外にこのプログラムを強化する方法はない。例えば 10 大じゃなくて 5 大ニュースでいいので、次のプログラムで発表する前にそれぞれまとめたものを事前に交換しておいてはどうか。それぞれで集まりをもってその成果を事前に交換するのも一つの考え方。

チョウミス

1) 前回に比べてお互いが近くなった。逆に、新しく参加した方とは内容の理解と人間関係において少し温度差が出てしまうのに、そこに配慮が足りなかつたと反省。
3) 長い目で、SEAL をどうするかについては、どこまでも理想を求めて話し合う段階ではあるが、やっぱり抽象的だという反省点がある。欲張りなプログラムだったが、もっと焦点を絞って練っていく必要があると思う。

もう一つ視点を加えるならば、アジアそして国家でない思想と言いながらも、まだ「日韓」という枠組みから私たちが脱していないという課題がある。本当に国家を超えた思考、概念をつくるために、どんなしきけが必要なのか、もう少し模索したい。

廣瀬稔也

SEAL は 5 日間だけではない。恐らく、今日のみなさんの意見をもとに来年のプログラムをよりよく改善していくという作業も SEAL のひとつのプロセス。自分の組織の若い人をプログラムに参加させたいという話もあった。そのためにも、みなさんの中恵と力を出していただきたい。がんばっていきましょう。

ユ・ミソン（プロテスタント）

- 1) 朝、各宗教別の礼拝の体験をでき、他の宗教に対する理解を深められた。皆さんと出会い話し合えたことが意味深い時間だった。
- 2) 今後 10 ヶ月については、元々まち共同体づくりを考えていたので、私の住む共同体でちいさなまちづくりを計画し、そこでの人々と勉強しながら少しづつ具体的に発展させていきたい。私の所属する 7 家族 15 人が住む共同体で、どのようなまちをつくり何が必要か、ともに勉強していきたい。

ファン・ヒョンジュ（プロテスタント）

- 1) 続けてプログラムに参加してみて、これまでが準備段階だとすれば今回は一段階親密感も大きくなり、深い内容に入れたという気がする。各宗教の礼式をともにできたことも相互理解の意味が大きかった。日韓共同の課題を調べたのも、お互いの違いよりも抱える問題は一緒なのだということを確認できたように思う。今後互いのどんなことを見つめ、どんなことを共にするかを確認することに役立った。

残念なのは、最後の結末で今後の話をする時間がもう少し多くあれば良かった。自分の生き方や宗教で今後すべきことを考える時間が短かったので、今後改善されることを期待する。時間を増やすとか、もう少しパートを細かく分けるとか。

場所が韓国だったということで、韓国の参加者の参加態度が、出たり入ったりすることが多くちょっと問題であり、残念だった。

今回確認した私たちの共通の課題をもって、今後準備していくことの参考になると思う。

ジョン・ソンファン（通訳）

- 1) さまざま宗教をもった人が集まるということが、特に韓国ではたやすいことではない。社会でいま起こっている問題がどこに問題があるのかを考える会であった。
- 勤め人なので、5 日間のプログラムに参加する時間をとるのが容易ではない。土日をはさんで金曜は休みを取るとしても、3 日間ですら簡単には時間を取れない。5 日でも実質 3 日間なので時間の不足感はあるけれど、多くの人に参加してもらうためにはちょっと短い時間でも参加できる方法を検討すべきではないか。
- 2) 資料の準備において、資料の翻訳など手伝いことで役に立ちたい。
- 3) SEAL の意味は、ソンミサンマウルなど具体的な事例を訪れて、各々の生活でどうすることができるか考えられる部分に意味がある。大げさなことでなくとも、実践できることがあると発見できる。今後は、プログラムに参加する人を拡大しいろいろな人が参加できれば、多様なアイデアが集まるのではないか。

イ・キホ

さまざまな多くの要素が入り、いろんな体験を味わうことができたと思う。シナリオは抜いたが、それでも時間がたりなかった。ちょっと大変だったとは思うが、それでも流れに沿って入れ込むことができた。5 泊 6 日くらいならちょうどいいが、参加する人はそれでは難しいだろう。開催した空間も、意味深い場所でできたと思う。

課題は通訳。時間がかかるだけでなく、リズムが途切れると言う問題。言語の問題は解決策がない宿題。

4 泊 5 日は時間をとるのは難しいが、勉強するには短い時間だ。1 年たってまた会っても継続感がやや落ちてしまう。みんなで集まるワークショップは 1 年に 1 回行うが、私たちでもっと密に会うようにできればと思う。

2. 9 月 28 日の韓国側事後評価会における意見

イ・キホ先生より、テーマのまとめ：5 つのキーワード

- (1) 生命・自治・豊かさ
- (2) まち（=現場） 土地としてのまちだけではなく、職場や関心ごとの「現場」
- (3) アジア
- (4) つながり

(5) 宗教

テーマに対する意見は以下の通り。

- 5つのキーワードは重要なが、私たちがなぜこの問題を扱うのかという動機づけを明確にすることが、関心をもって取り組むにあたって重要。

- 5つのテーマを1回のワークショップで全部扱うのは難しい。たとえば、次回は「生命と安全」というテーマに絞り、どのような問題があるか考え、アジア的な観点でどう解決できるか考える、など。

- 生命に関わることでもあるが、脱核（脱原発）というテーマも勉強したい。生命の問題のみならず、地域を破壊するという意味でも原発問題は大きな課題である。

- 私たちがアジアについてあまりに知識が足りないので、もっとアジアについての勉強をすべき。

- アジアを勉強することはたくさんある。中国を知ることは特に重要だし、個人的にはフィリピンの問題について関心がある。

- 市民社会、市民活動家と宗教者の問題へのアプローチの仕方に大きく差があった。神学を勉強してきた私にとっては、まちづくりや自治といったテーマは全く学んだことがないため、面白くもあり、難しい。市民社会はこういうテーマはもっと身近に取り組んできたのでは。それで、宗教者と市民社会が考え方の違いや視点などを互いに知る機会などがもっとあってもいい。

→年1回のワークショップだけでなく、次回までの間に集まって事前勉強会を行うことで合意。

1泊2日の集まりを2回行う。この勉強会には、新しいメンバーも随時参加奨励。

【第1回】 2014年10月24日～25日

17時～19時...”中国の現在と未来、わたしたちは中国をどう見るのがか”（講師未定）

20時～...「生命」「脱原発」「平和」の小テーマで勉強すべきカリキュラムをまとめて発表、意見交換（各題、発題者割り振り）

夜...交流会

【第2回】 2015年2月末（1泊2日：暫定）

円仏教イクサン聖地を訪問予定。